

等ハ不日竣工するに付修繕隊は續いて大坂府の寶物に着手する筈なり

(明治三十三年六月二十五日『読売新聞』)

○大坂府下の國寶 同府下の古社寺たる四天王寺、泉穴師神社、觀心寺、河合寺、金剛寺、道明寺、安福寺の什寶にして國寶となりし神體佛像の修繕ハ内務省の古社寺保存計畫調査囑托委員新納忠之助氏主任となり各社社に出張して美術學校生徒美術院の技師等を指揮し春來修覆に着手しこの程全く終了したりと

(明治三十三年十一月二十四日同紙)

5 依囑制作および精芸会

本校の依囑製作事業は明治三十一年の美術學校騒動の折りに反岡倉派が批判の鋒先を向けた問題点の一つであった。本校がその批判を容れて事業を廃止したか否かについては正式記録が無いが、明治三十一、二年報に宝物修繕に関する記事以外は何ら記載されていないところをみると、一時事業を中止したことが考えられる。ただし、その間は精芸会(本書第一卷395頁参照)が盛んに依囑製作を行なった。これについては大村西崖が次のように記している。

○美術通信 △△生

〔上略〕△精藝會といへるは美術學校卒業生の組織にかゝり、一時九鬼〔隆一〕の後押とか鹿嶋〔清兵衛か〕が金主なりとか、種々様々の取沙汰ありたれど、其後發起者等の盡力にて此程は數多の依囑事業あり、いま二三を挙げれば、三嶋東宮侍講の銅像は黒岩淡齋氏〔哉〕の塑造中、築地本願寺の建築附屬彫刻は契約済み、京都北垣男爵の銅像原型は白井雨山氏

將に着手せんとし、某家の金屏風は結城素明、山崎勇馬二氏の稿中に係り、某所の馬像大紀念碑圖案は今正に懸賞募集せられ大阪に建てらるべき楠公騎馬像木型は既に修理工事に取掛れり、其他の申込み亦尠なからずと聞く、會員たるもの須らく努力すべし

(明治三十二年二月十四日『時事新報』)

明治三十三年度に至り、本校の依囑製作事業の件数は再び増加する。その発端は東宮御成婚奉祝献納品の製作依頼にあつたようである。本年度の製作品の担当者は次のとおりである。

菊藤掛物(東宮御成婚奉祝献納品) 設計久保田鼎、製作荒木寛敵、軸製作向井勝幸

御慶事賀表(同) 担当者未詳

桐鳳凰掛物(同) 製作川端玉章

龍銀製麒麟置物(同) 製作海野勝珉

藤原時代木彫舎人像(同) 意匠考案通信省郵務課長樋畑正太郎、彫刻高村光雲

鍛鉄花瓶(同) 製作主任海野勝珉、彫金担任向井勝幸、鍛金担任平田宗幸、図案川端玉章

銅製鶴(同、沼津御用邸用) 担当者未詳

吉田健康胸像(長崎市諏訪公園へ設置) 铸造桜岡三四郎

明治三十三年

① 職員任免その他

関連事項

明治三十三年
一月九日

囑託大村西崖は東洋美術史講義(從來今泉雄作担当)

兼担を命ぜられる。

十八日 校長心得久保田鼎校長に任命される。

三十日 嘱託本田種竹清国より帰国。

二月十日 教授海野美盛休職しフランスへ向け出発。

十七日 教授長沼守敬依願免官。

二十六日 教授浅井忠渡仏。

三月十日 敷波重次郎美術解剖授業嘱託となる。

二十一日 教授黒田清輝は文部省より美術に関する制度取調

べ並びに絵画教授法研究のため満一ケ年のフランス留学を命ぜられる。

三十日 助教授金井清吉歿。

四月十八日 辻村延太郎助教授に任命される。

二十日 嘱託藤田文蔵教授に任命される。

五月十二日 桜岡三四郎助教授に任命される。

十四日 中村如等、高橋烏谷雇(助教)を命ぜられる。

十五日 助手小林万吾助教を命ぜられる。嘱託中村勝治郎

助教を命ぜられる。

二十四日 黒田清輝フランスへ向け出発。

六月二十九日 助教黒岩淡哉塑造科嘱託を命ぜられる。

七月二十一日 教授荒木寛畝帝室技芸員を命ぜられる。

八月二十三日 今泉雄作教授を辞し帝室博物館(美術部長)へ転

任。

九月五日 川崎千虎凶案授業嘱託を命ぜられる。

六日 岩村透渡仏のため解嘱される。

七日 今泉雄作凶案科授業嘱託を命ぜられる。

十五日 新井春次郎美術解剖授業嘱託を命ぜられる。助教

授田中後治休職。

十七日 河辺正夫凶案科助教授を命ぜられる。

三十日 敷波重次郎解嘱。野口吉五郎解雇。

十二月三日 鈴木繁吉体操授業嘱託を命ぜられる。

十七日 吉田清次郎調漆授業嘱託を命ぜられる。

② 久保田鼎校長就任と制度改革計画

明治三十三年一月十八日、校長心得であった久保田鼎は正式に校長(帝國博物館理事および主事兼任)に任命された。当時の新聞記事は久保田校長のもとで制度改革の検討が進められていたことを窺わせる。

○東京美術學校 同學校にてハ豫々^{〔かねがね〕}教授法を一新して二十世紀の美術を大成せんとする計畫あり 評議稍や熟したれば本月末にハ其大意を公にすべしと

(明治三十三年一月十三日『読売新聞』)

○東京美術學校今後の方針 久保田校長が今後に取りるべき美術學校の方針ハ未だ發表されざれ共豫め推斷し得る所ハ彫刻科ハ塑像^{〔造力〕}を中心とし、彫金鍛金ハ之を一括して合同一致せしめ十年來欠缺居たる建築科ハ之を補充すると同時に現在の圖案科中建築裝飾と工藝圖案とを分離して各々實驗製作の道を求むるに力め、西洋